

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-308687

(43)Date of publication of application : 30.10.1992

(51)Int.Cl. H05B 33/08
G09F 9/30
H05B 33/14
// H01L 33/00

(21)Application number : 03-075213

(71)Applicant : PIONEER ELECTRON CORP
PIONEER VIDEO CORP

(22)Date of filing : 08.04.1991

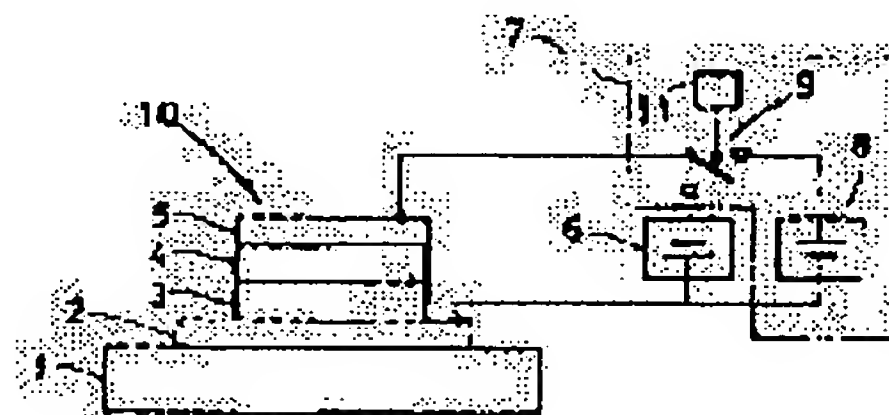
(72)Inventor : AMAMIYA KIMIO
MANABE MASAMICHI
TANAKA YUKIO

(54) ORGANIC ELECTROLUMINESCENCE DISPLAY

(57)Abstract:

PURPOSE: To suppress the deterioration of electric property even if DC driving continues by providing a protective means, which applies reverse voltage, between an organic electroluminescence(EL) element, which is driven by the application of DC voltage, and its cathode and anode.

CONSTITUTION: A plurality of transparent anodes 2 consisting of ITOs, a positive transport layer 3, an EL layers 4, and a plurality of cathodes 5 are stacked in order on a glass transparent substrate. A driving circuit makes it emit light according to the pigments of a plurality of EL elements by applying positive DC voltage. A protective circuit 7 applies the voltage reverse to the DC voltage from the driving circuit 6 to between electrodes to between the electrodes 2 and 5. The protective circuit 7 is equipped with a reverse voltage power source 8, and applies reverse voltage to the electrodes 2 and 5. This way, it can be made the device wherein the deterioration of the electric property of the EL element is suppressed even if DC driving continues.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平4-308687

(43)公開日 平成4年(1992)10月30日

(51)Int.Cl. ³	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 5 B 33/08		8815-3K		
G 0 9 F 9/30	3 6 5 Z	7926-5G		
H 0 5 B 33/14		8815-3K		
H 0 1 L 33/00	J	8934-4M		

審査請求 未請求 請求項の数7(全 5 頁)

(21)出願番号 特願平3-75213

(22)出願日 平成3年(1991)4月8日

(71)出願人 000005016

バイオニア株式会社

東京都目黒区目黒1丁目4番1号

(71)出願人 000111889

バイオニアビデオ株式会社

山梨県中巨摩郡田富町西花輪2680番地

(72)発明者 雨宮 公男

山梨県中巨摩郡田富町西花輪2680番地バイオニアビデオ株式会社内

(72)発明者 真鍋 昌道

山梨県中巨摩郡田富町西花輪2680番地バイオニアビデオ株式会社内

(74)代理人 弁理士 藤村 元彦

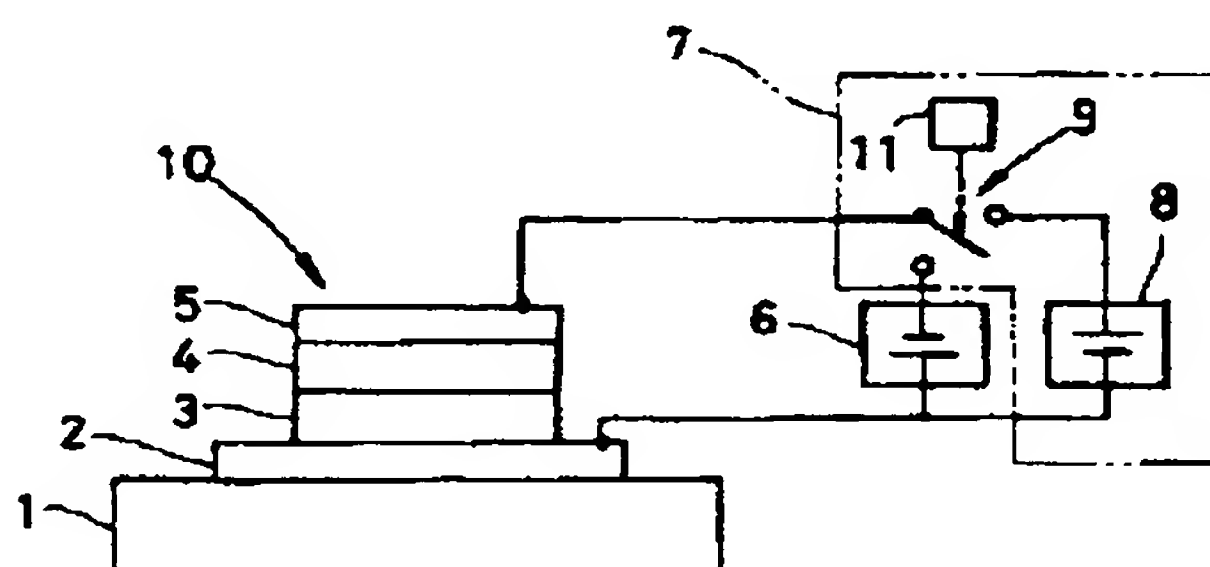
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 有機エレクトロルミネッセンス表示装置

(57)【要約】

【目的】 有機EL素子の電気特性の経時劣化の少ない有機EL表示装置を得る。

【構成】 有機EL表示装置は、直流電圧の印加により駆動する有機EL素子とそのカソード及びアノード間に間歇的に逆方向電圧を印加する保護手段とからなる。



BEST AVAILABLE COPY

1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 基板上において互いに対向するカソード電極とアノード電極との間に配置された有機物質からなる有機エレクトロルミネッセンス層を有する有機エレクトロルミネッセンス素子と、前記カソード電極及び前記アノード電極間に直流電圧を印加する駆動手段と、前記カソード電極及び前記アノード電極間に間歇的に逆方向電圧を印加する保護手段とからなることを特徴とする有機エレクトロルミネッセンス表示装置。

【請求項 2】 前記アノード電極と前記エレクトロルミネッセンス層との間に有機化合物からなる正孔輸送層を有することを特徴とする請求項 1 記載の有機エレクトロルミネッセンス表示装置。

【請求項 3】 前記エレクトロルミネッセンス層と前記カソード電極との間に有機化合物からなる電子輸送層を有することを特徴とする請求項 1 記載の有機エレクトロルミネッセンス表示装置。

【請求項 4】 前記アノード電極と前記エレクトロルミネッセンス層との間に有機化合物からなる正孔輸送層を有し、前記エレクトロルミネッセンス層と前記カソード電極との間に有機化合物からなる電子輸送層を有することを特徴とする請求項 1 記載の有機エレクトロルミネッセンス表示装置。

【請求項 5】 前記逆方向電圧は、前記直流電圧の印加される時間の $1/100$ のパルス幅のパルスであることを特徴とする請求項 1 記載の有機エレクトロルミネッセンス表示装置。

【請求項 6】 前記逆方向電圧は、20 ミリ秒以下のパルス幅のパルスであることを特徴とする請求項 1 記載の有機エレクトロルミネッセンス表示装置。

【請求項 7】 前記逆方向電圧は、3 V 以上かつ前記有機エレクトロルミネッセンス素子の逆方向耐電圧以下の電圧を有することを特徴とする請求項 1 記載の有機エレクトロルミネッセンス表示装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【技術分野】 本発明は、電界の印加によって発光する物質のエレクトロルミネッセンス（以下、EL という）を利用してかかる物質を層状にしてこれを備えた EL 素子からなる EL 表示装置に関し、特に EL 層が有機化合物からなる有機 EL 表示装置に関する。

【0002】

【背景技術】 EL 素子を EL 層の材質で分類すると、無機物からなる EL 層を有する無機型と有機物からなる EL 層を有する有機型とに分けられる。かかる無機型 EL 素子では直流電場で駆動される直流形と、交流電場で駆動される交流形とに分類されている。また、有機型 EL 素子は直流形の注入型のものが良く知られ、LED と同様な整流性素子である。

【0003】 例えば、有機 EL 素子には図 4 に示すよう

2

に、ガラス透明基板 1 上に、ITO（インジウムスズ酸化物）等の複数の透明電極 2（アノード）、正孔輸送層 3、有機 EL 層 4、透明電極 2 に直角に交差する複数の背面電極 5（カソード）を順に積層、形成した XY マトリクス型有機 EL 素子 10 がある。有機 EL 素子には、図示する正孔輸送層 3 及び有機 EL 層 4 からなる 2 層構造のものや、図示しないが有機 EL 層 4 及びカソード 5 間に有機電子輸送層がさらに配された 3 層構造のものも知られている。また、カソード 5 の上には、通常これを保護し短絡を防ぐ保護層が被覆されている。図に示すアノード 2 及びカソード 5 の一組に挟まれる有機 EL 層 4 は、アノード 2 及びカソード 5 から直流電圧を印加されることによって発光する。

【0004】 図 5 に示すように有機 EL 表示装置は上記のような有機 EL 素子とこれを駆動する回路 6 を有している。この駆動回路 6 は図では略して直流電源のみを代表して示されているが、この駆動回路 6 は、図 4 に示すドットマトリクスにおける 1 つの有機 EL 素子部分を 1 つの画素に対応させ発光させる。表示駆動回路 6 は例えば、有機 EL 素子からなる複数の画素の各々に対応する記憶位置を有するメモリ（図示せず）を有し、映像データ信号発生手段（図示せず）から出力される映像データ信号に応じてメモリの内容が更新されるメモリの内容に従って直流電圧を有機 EL 素子部分ごとに印加し又は非印加して有機 EL 素子の各画素のオンオフ、すなわち明暗を定める。このように、かかるマトリクス形有機 EL 表示装置においては、直交した各帯状電極の 1 交点が 1 画素に対応しており、走査電極群及び信号電極群の任意の電極間に印加される直流電圧を制御し、各画素すなわち有機 EL 素子の発光状態を変化させることによって画像の表示が行なわれる。例えば、マトリクス形有機 EL 表示装置においては、マトリクス点灯させるために図 6（b）に示すように正の駆動直流電圧は、映像データ信号等に応じて間歇的に印加される。また、有機 EL 素子を連続して点灯させる場合（スタティック点灯）は、図 6（a）に示すように正の直流電圧は連続して印加される。

【0005】 しかしながら、有機 EL 素子においては、当初は図 7（a）に示すようにアノード 2 及びカソード 5 の一組に挟まれる正孔輸送層 3 及び有機 EL 層 4 を形成する誘電体の有機分子 34 は p n 接合 35 付近においてもアモルファス状態で存在しているが、有機 EL 素子の直流駆動を続けると、図 7（b）に示すように有機分子 34 は p n 接合 35 付近において一定方向の電界による誘電分極によって配向し p n 接合が破壊され、素子の電気特性が時間経過と共に劣化して、ついには短絡モードで有機 EL 素子自体が破損してしまう。

【0006】 図 8 に示すように、ガラス基板上に ITO のアノード、TPD の正孔輸送層 3、Alq₃ の有機 EL 層、MgAl のカソード 5 を順に積層した有機 EL 素

3

子を含む有機EL表示装置について電気的特性調べてみると、当初の有機EL素子の電圧電流特性（破線）及び電圧輝度特性（一点鎖線）に対して、長時間の直流電圧駆動を行った後の電圧電流特性（実線）及び電圧輝度特性（二点鎖線）は、大幅に劣化している。

【0007】

【発明の目的】本発明は上記問題点に鑑みなされ、本発明の目的は直流駆動を続けても有機EL素子の電気特性の劣化を抑制する有機EL表示装置を提供することにある。

【0008】

【発明の構成】本発明の有機EL表示装置は、基板上において互いに対向するカソード電極とアノード電極との間に配置された有機物質からなる有機EL層を有する有機EL素子と、前記カソード電極及び前記アノード電極間に直流電圧を印加する駆動手段と、前記カソード電極及び前記アノード電極間に間歇的に逆方向電圧を印加する保護手段とからなることを特徴とする。

【0009】

【発明の作用】本発明によれば、有機EL素子の電気特性の経時変化の少ない有機EL表示装置が得られる。

【0010】

【実施例】以下、本発明による実施例を図面を参照しつつ説明する。図1に示すように、本実施例の有機EL表示装置は、有機EL素子10と、有機EL素子に直流電圧を印加する駆動手段すなわち駆動回路6と、有機EL素子に逆方向電圧を印加する保護手段すなわち保護回路7とを有している。

【0011】図1には有機EL素子の1画素部分のみを示しているが、有機EL素子は上記したものと同様にガラス透明基板1上にITOからなる複数の透明アノード2、正孔輸送層3、有機EL層4、複数のカソード5を順に積層、形成したものである。有機EL素子は、図示する正孔輸送層3及び有機EL層4からなる2層構造、もしくは有機EL層4及びカソード5間に有機電子輸送層がさらに配された3層構造、または有機EL層とカソード5間電極との間に電子輸送層を有する2層構造、としてもよい。カソード5の上には、これを保護し短絡を防ぐ保護層が被覆されてもよい。

【0012】駆動回路6は、上記したものと同様に図では略して直流電源のみを代表して示されているが、正の直流電圧を印加して複数の有機EL素子部分の画素に対応させてるように発光させ、上記したものと同様に映像データ等の信号に応じて電極間2、5に印加される直流電圧を制御し、有機EL素子の各画素の発光状態を変化させることによって有機EL素子に画像を表示させる。

【0013】保護回路7は、駆動回路6からの電極間への直流電圧とは逆方向の逆方向電圧を電極2、5間へ印加する。保護回路7は、逆方向電圧電源8と、逆方向電圧電源8から電極2、5間に逆方向電圧を印加するか若

4

しくは駆動回路6から印加するかを切替る切替器9と、そのそれぞれの接続時間を制御して切替器9を駆動する発振器11とからなる。逆方向電圧電源8はその出力電位を可変とすることもでき、保護回路は、3V以上かつ有機EL素子の逆方向耐電圧以下の逆方向電圧を電極2、5間へ印加する。

【0014】かかる保護回路7による有機EL素子への逆方向電圧の印加としては例えば、図2(a)に示すように、有機EL素子のスタティック点灯の場合では、直流電圧の印加される総時間の1/100の時間だけ逆方向電圧を印加することにより、有機EL素子の劣化が押さえられる。またこの場合、保護回路7は、直流電圧が印加されて点灯すべき間において20ミリ秒以下の時間だけ逆方向電圧を印加することにより、目視者にちらつきを与えることがなくなる。発振器11は、図2(a)に示すように、逆方向電圧の一定間隔パルスとなるように切替器9を作動させている。

【0015】さらに例えば、図2(b)に示すように、有機EL素子のマトリクス点灯の場合では、直流電圧が印加されて点灯すべき間は逆方向電圧を印加せず、非点灯間だけ逆方向電圧を連続して印加することにより、有機EL素子の劣化が押さえられる。また、図2(c)に示すように、直流電圧が印加されて点灯すべき間は逆方向電圧を印加せず、非点灯間だけ逆方向電圧を、発振器11により逆方向電圧の一定間隔パルスとなるように、印加しても同様の効果が得られる。

【0016】発振器11を制御して逆方向電圧の一定間隔パルスの幅と周期を可変とし、さらに逆方向電圧電源8の出力電位を可変としてそれぞれ制御することによって、直流電圧の印加される総時間の1/100の時間だけ逆方向電圧の総印加時間を維持することが出来る。例えば、ガラス基板上にITOのアノード、TPDの正孔輸送層3、Alq₃の有機EL層、MgAlのカソード5を順に積層した有機EL素子を含む有機EL表示装置について電気的特性調べてみると、図3に示すように、当初の有機EL素子の電圧電流特性（破線）及び電圧輝度特性（一点鎖線）に対して、長時間の直流電圧駆動を行った後の電圧電流特性（実線）及び電圧輝度特性（二点鎖線）は、劣化が少ない。

【0017】

【発明の効果】以上の如く、本発明の有機EL表示装置によれば、直流電圧の印加により駆動する有機EL素子とそのカソード及びアノード間に逆方向電圧を印加する保護手段とからなるので、有機EL素子の電気特性の経時劣化の少ないものが得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による実施例の有機EL表示装置の概略図である。

【図2】本発明による実施例における有機EL素子への駆動直流電圧及び逆方向電圧の印加の状態を示すグラフ

(4)

特開平4-308687

5

6

である。

【図3】本発明による実施例における有機EL素子の電圧電流特性及び電圧輝度特性を示すグラフである。

【図4】有機EL素子の切欠拡大斜視図である。

【図5】従来の有機EL表示装置の概略図である。

【図6】従来の有機EL素子への駆動直流電圧の印加の状態を示すグラフである。

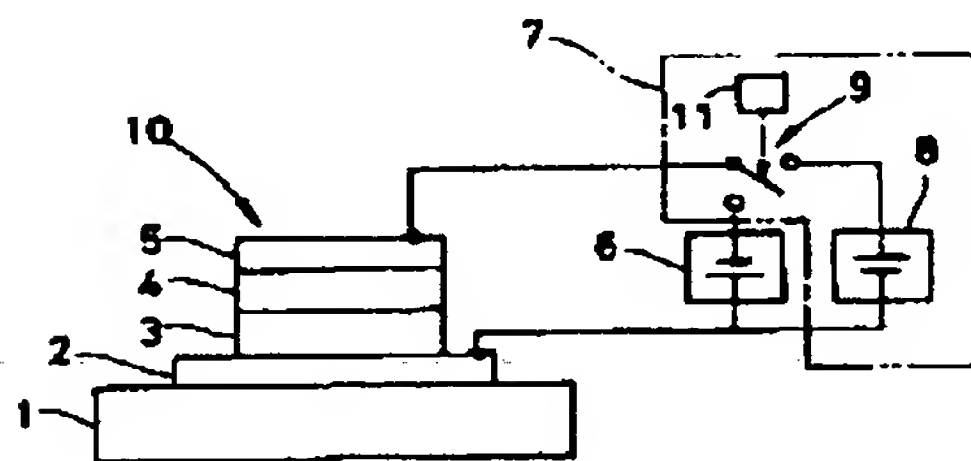
【図7】有機EL素子の駆動直流電圧の印加による正孔輸送層及び有機EL層を形成する誘電体の有機分子の状態を説明する概略図である。

【図8】従来の本発明による実施例における有機EL素子の電圧電流特性及び電圧輝度特性を示すグラフである。

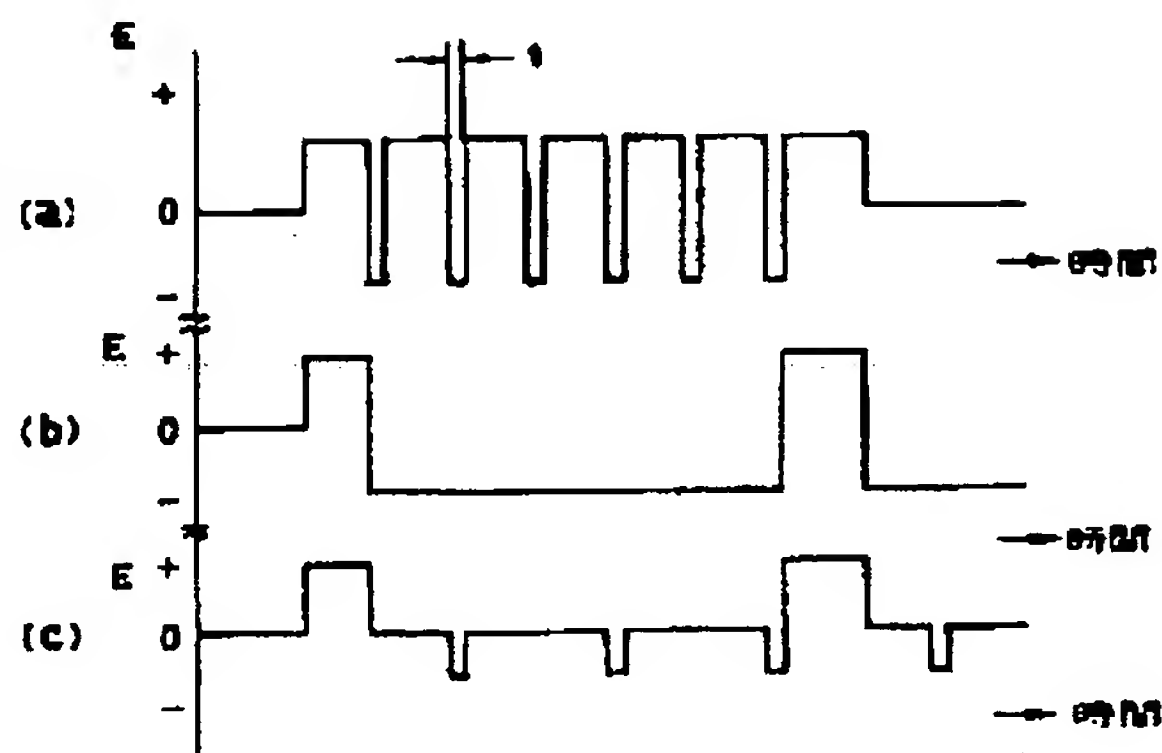
【符号の説明】

- 1……透明基板
- 2……透明アノード
- 3……正孔輸送層
- 4……有機EL層
- 5……カソード
- 6……カソード
- 7……保護回路
- 8……逆方向電圧電源
- 9……切替器
- 10……有機EL素子
- 11……発振器

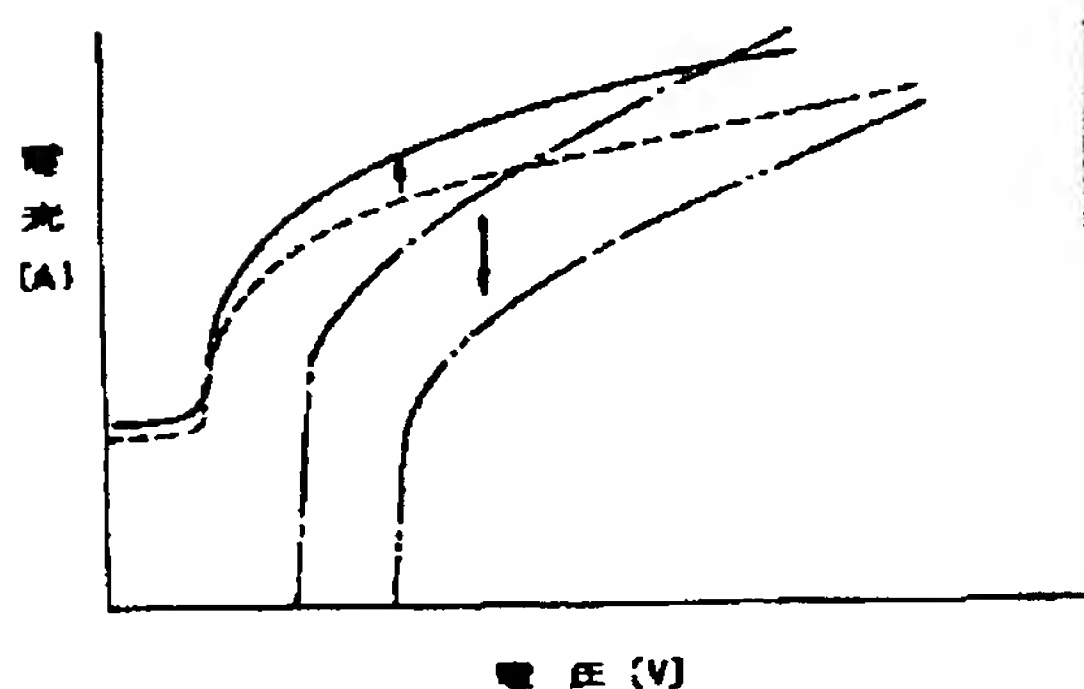
【図1】



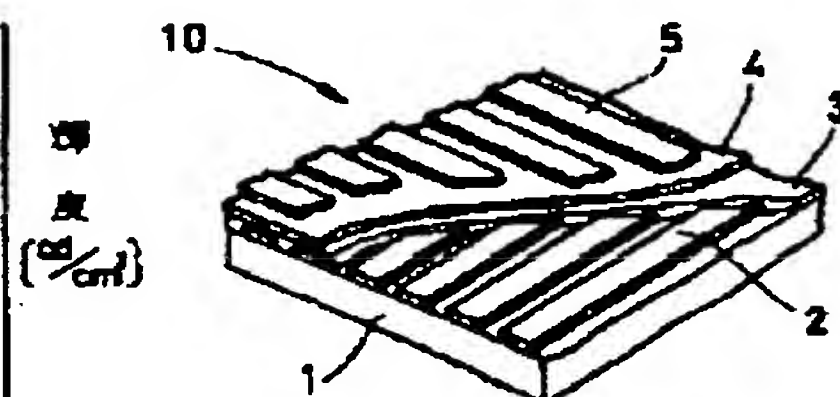
【図2】



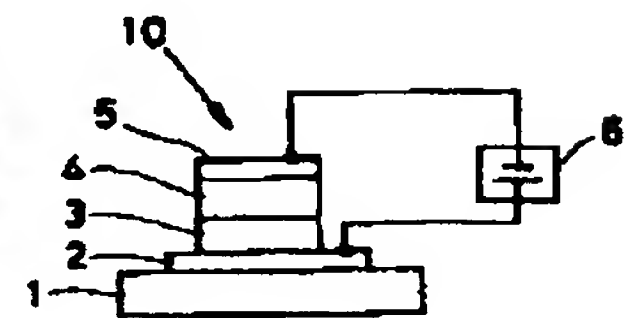
【図3】



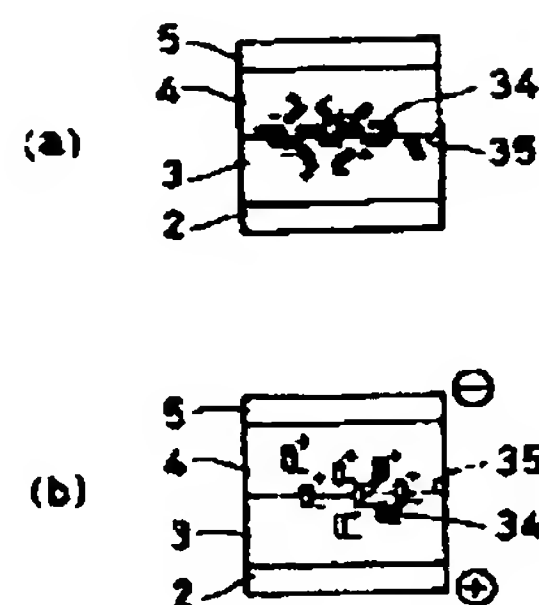
【図4】



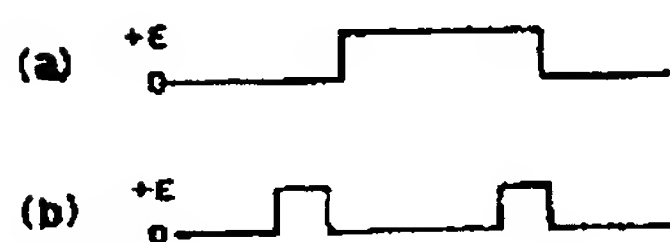
【図5】



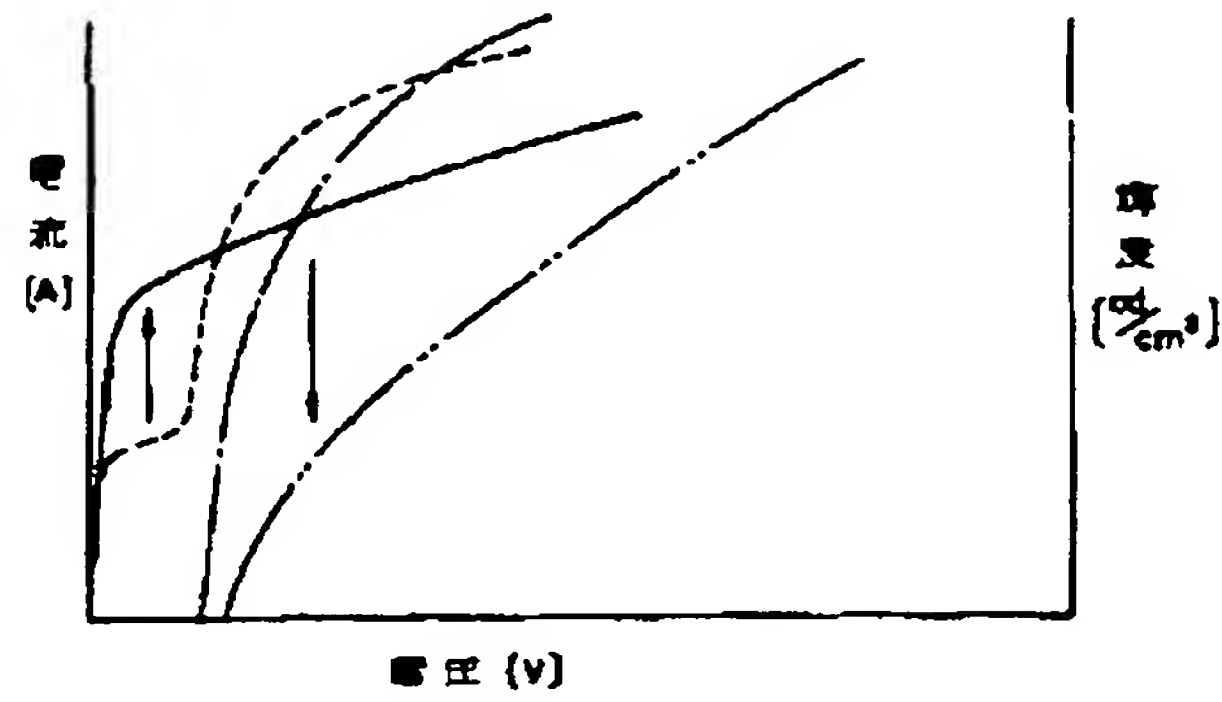
【図7】



【図6】



【図8】



フロントページの続き

(72) 発明者 田中 幸男
 山梨県中巨摩郡田富町西花輪2680番地パイ
 オニアビデオ株式会社内

BEST AVAILABLE COPY